

第21回日本腰痛学会

プログラム・抄録集

腰痛に挑む

— 知と技の糸を織り成して —

会期

2013年 11月1日 金・2日 土

会場

JPタワー ホール&カンファレンス

会長

持田 讓治

東海大学医学部
外科学系整形外科 教授



腰痛に挑む—知と技の糸を織り成して—

第 21 回日本腰痛学会会長 持田 譲治

(東海大学医学部外科学系整形外科学)

腰痛は運動器疾患・外傷の臨床現場において最も多い訴えですが、その病態が多彩で難解なため、その解明が十分には進んでいません。このため、「経験論的な知識・考え方」で診断・治療が行われている部分もあります。さらに今最も危惧すべきことは、腰痛の診断・治療に関わっている医師の中に、「腰痛の原因を探るのは難しい、原因不明の腰痛がかなり多いのだ」と胸を張って言い続ける方達がおられることです。確かに腰痛の病因・病態の解明は難解ですが、腰痛の原因を同定しようとする科学的好奇心を決して捨ててはならないことは自明です。全側彎症の中で、原因不明な特発性側彎症の占める割合が 20 年前に比べて明らかに減少してきている事実は、絶え間ない病態研究の継続が必要であることを教えてくれています。

このような時期に第 21 回日本腰痛学会の運営を東海大学がお世話させていただくことになり、大変光栄に存じます。本学会のスローガンを「腰痛に挑む—知と技の糸を織り成して—」としました。「知」は science に、また「技」は art という言葉に置き換えられます。腰痛の診断・治療には、基礎研究、橋渡し研究、臨床研究の結果を巧みに組み合わせることで考えていくことが重要であると言う私達主催校の熱い思いもまた表わしています。

骨粗鬆症性腰痛（骨傷あり・なし）の治療戦略、成長期腰痛の診断と治療、非特異的腰痛に対する薬物療法、脊柱変形による腰痛の病態と治療、椎間板変性と腰痛—その病態と治療—を主題ならびにパネルディスカッション 53 題として企画しました。特別講演は、本学会の理事を長年に亘り務められている米延策雄先生と星野雄一先生にお願いしました。含蓄のある素晴らしいお話を頂けると期待しています。今回は 162 題という多数の応募を頂き、154 題を採用しました。口演は 2 つの会場で行い、初日の午後には 3 社によるハンズオンセミナーと全員懇親会の直前にポスター展示・口演も予定しました。ランチョンセミナー 4 つ、モーニングセミナー 1 つと共に楽しみ頂きたいと思います。

旧東京中央郵便局舎跡に今春開業した JP タワー ホール&カンファレンスで皆様とお会いし、「腰痛の診断と治療」を十分に議論させていただくことを楽しみにしています。